

長門

萩八景



萩八景

今を去る二百有餘年前即ち貞享の頃時の城主  
毛利吉就公は山田原欽安部春貞雲谷等播をし  
て支那の瀟湘に倣ひ勝地八ヶ所を撰ばしめ名  
づけて八江とされたるなり即ち

◎倉江の歸帆

町の西方橋本川の河口なり毛利公御藏版の  
江萩名所圖繪に「八江弱城八勝の一にして眺  
望特に壯豁の地なり高東風の長閑に吹き出  
れば島根に波の花をちらし雲の上に鳴る郭公  
は夕やみ早くすぎて思ひをのこす金風58涼し  
く立てば初沙に磯への松をあらふ行跡る釣舟  
はちりしける落葉かごまかひ消ぎよする大船  
の帆は雪かとも思はるべくしていと／＼あか  
ぬ眺めなりけり四方の風流士とさならすして  
是を賞翫せぬはなし」とあり其詩歌

地挹遠天三面開 水漫數島一回帆 (原欽)  
倉江風孰潮生駛 疑是仙槎銀漢來  
遠しまや浪もひとつにみどりなる (春貞)  
雲よりいで、かへる釣舟

2882

館書圖立市殊

萩八景

今を去る二百有餘年前即ち貞享の頃時の城主毛利吉就公は山田原欽安部春貞雲谷等播をして支那の瀟湘に倣ひ勝地八ヶ所を撰ばしめ名づけて八江とされたるなり即ち

◎倉江の歸帆

町の西方橋本川の河口なり毛利公御藏版の八江萩名所圖繪に「八江霸城八勝の一にして眺望特に壯豁の地なり高東風の長閑に吹き出づれば島根に波の花をちらし雲の上に鳴く郭公は夕やみ早くすぎて思ひをのこす金風の涼しく立てば初汐に磯への松をあらふ行歸る釣舟はちりしける落葉かこまかひ漕ぎよする大船の帆は雪かとも思はるべくしていとくあかぬ眺めなりけり四方の風流士ときならずして是を賞翫せぬはなし」とあり其詩歌

地挹遠天三面開 水漫數鳥一回帆 (原欽)

倉江風孰潮生駛 疑是仙槎銀漢來 (春貞)

遠しまや浪もひとつにみどりなる (春貞)  
雲よりいで、かへる釣舟

葉にのりす、吹へる、遠世  
新しき舟も心さし、こゝろもなる (春景)

舟は風波の主、銀長舟船幾艘來 (初夏)

舟は天三而開、水勢雄風一回地

景は青嶺甘飯おひし、こゝろも其高潮  
舟はのびも、舟は四丈の風流士とさぶる、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は

◎食玉の福地

舟は八五と、舟はのびも、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は  
舟はのびも、舟は思知るへ、舟はのびも、舟は

海八景



帆 歸 の 江 倉 (景八秋)



POST CARD

きかいは便郵

山田村字玉江の秋

◎玉江の秋月

町の西方橋本川を隔て、一部落の中央に高く聳ゆる一寺院は山田村字玉江の観音堂にして風景頗る佳良名所圖繪に「八江萩八勝の一にして特に葉月の比は詞人吟客こゝに羣集して月を賞翫ふ陸より行くものあれば舟に乗り出る人あり清風徐ろに吹き來て漣波岸を濯ふ月は見る／＼尾の上に澄みのほりて青海原空もひとつなる白露と水光と柱の權闌の漿おのがとり／＼上りみ下りみ飄々として世の塵を遁れ渺々として憂き懷を遣る詩歌管絃のさま／＼にあるは催馬樂筑紫風あるは鄙風みやこふりとさればみごよみて秋の夜の永きも思はず月の入山はひらけよこのみ杯盤狼籍すてに東方の白るもしらざりけりされば幽雅の輩此里にありて此境に遊ばざらめやと理なり」とあり其詩歌

玉江一片秋 明月入清流 (原欽)  
夜靜人回首 漁村烟霧收  
江の水にうつるかげさへ白玉を (春貞)  
みがくはかりのあきの夜の月





きかは便郵

POST CARD

二 郵 局 新 日 報 白

◎ 櫻江の暮雪

町の西南字川添の對岸なる一部落櫻江は椿村に屬す名所圖繪に「八江萩八景の一にして尤も風光を貯へり名にしおふ春の櫻江打霞みて水は翠の春と争ふ吹嵐す白水あらしに暑をわすれては椿山の鐘の音に夜のいたく更けたるをわところき野分の風は冷ましく立て繩手往來ふ袂を襲ふ渡守を呼はふこゑは深雪の中に埋れて面影山の姿のみ所得良なるもまた奇なりとすべし市中の騷人あぞび所となせり」とあり其詩歌

雪滿櫻江更問津 晚來舟早訝行人 (原欽)

風回偏惜入浪碎 楫轉何妨壓笠頻 (春貞)

しら雪の夕の色はさくらはな 江の浪かけてちるかどそ見る (春貞)







きかは便郵

POST CARD

行啓家新日銀印

◎小松江の晩鐘

櫻江の上手に當る一部落小松江の風景最も佳  
良特に土地高く廣壯なる一寺院毛利公の御墓  
所たる靈椿山大照院と稱す黄昏の鐘の音は雅  
趣を加へて眺めよし名所圖繪に「八江萩八勝  
の一にして風景黄昏を最も佳とす靈椿山大照  
院は元と觀喜寺と號し櫻江にあり京都南禪寺  
派の禪園にして菽臨家三ヶ寺の一なり本尊千  
手觀世音菩薩を安置す(天竺佛と言ひ傳ふ)相  
傳ふ當寺は始め月輪山觀音寺といへり昔人皇  
五十代桓武天皇の御宇延暦年間御草創にて勅  
額の道場の佛域なり云々」とあり其詩歌

斷霞夕繞峯 深寺度疎鐘 (原欽)  
漫々春江水 平吞樓外松

山のはもかすみわたりにて遠き江の (春貞)  
松よりつたふ入相のかね



小松江の晩鐘 (萩八景)

山の上の松林は人跡の無  
 山のおもむきをわびしむるに  
 菊の林 平の松林 (風流)  
 湖の波の静けさ 雲の影の  
 花十弁臥先天皇の御宇  
 野へ登るお故も且鐘山  
 手馴出昔昔菫を定置を  
 天の輪圓の了了菫三  
 菊の天と晴雲をと鐘山  
 一ノ了了風見黄骨を鐘  
 鐘を吹へて湖のよし各  
 池の雲霧山大湖と鐘山  
 自林の土山高く鐘山を  
 鐘山の土山に當る一  
 鐘山の土山に當る一

◎小松江の鐘



きかは便郵

POST CARD

◎上津江の晴嵐

町の東南河上に當る上津江は山腹に霧の變く事毎朝その眺め最も奇觀なり名所圖繪に「八江萩八勝の一にして風景最奇觀なり」とあり其詩歌

上津江上歛秋霖 度嶺嵐光浮乍沈  
旋與扁舟傍灘落 日登丈五翠猶深 (原欽)

山川の瀨々の朝霧たえくくに  
江の浪見えて行嵐かな (春貞)



嵐晴の江津上 (景八萩)

丘の好景天下谷嵐の  
山川の雄々の時露式(不) (春良)

嶺奥温谷野藤密 日笠女正翠餘彩 (夏佳)

土半丘土嶺好森 奥嵐嵐改新水

風景景香躰(不) (不) 其精輝

と冷浪飄能(不) 八丘蔭八想の(不) (不)

雲の舞々華舞降(不) の湖(不) 景(不) 香躰(不)

四の東南西(不) 當(不) 土半丘(不) 山廻(不)

◎土半丘の御嵐



きかは便郵

POST CARD

下津江の落雁

◎下津江の落雁

町の東方浮島の對岸なる下津江は往古落雁の譽れ高かりしが今尙昔をしのばれて風景絶佳なり名所圖繪に「八江萩八勝の一にして風光さながら畫圖に異ならず」とあり其詩歌

旅雁秋高停未征 一汀水氣接天晴 (原欽)  
問渠綠底漫來去 不耐寒江万里情

有明の入江のあまのほのくさね (春貞)  
あくる空よりわたつるかりがね



雁落の江津下 (景八萩)

CARD

あつる空と水の色は  
直前の入江のさき

間葉遊園地  
遊園地高野末並

園に異なる

五藩八親の

のわたり風景

古峯洲の雲

西の東式

◎不事丘の蒸籠



キカイ郵便

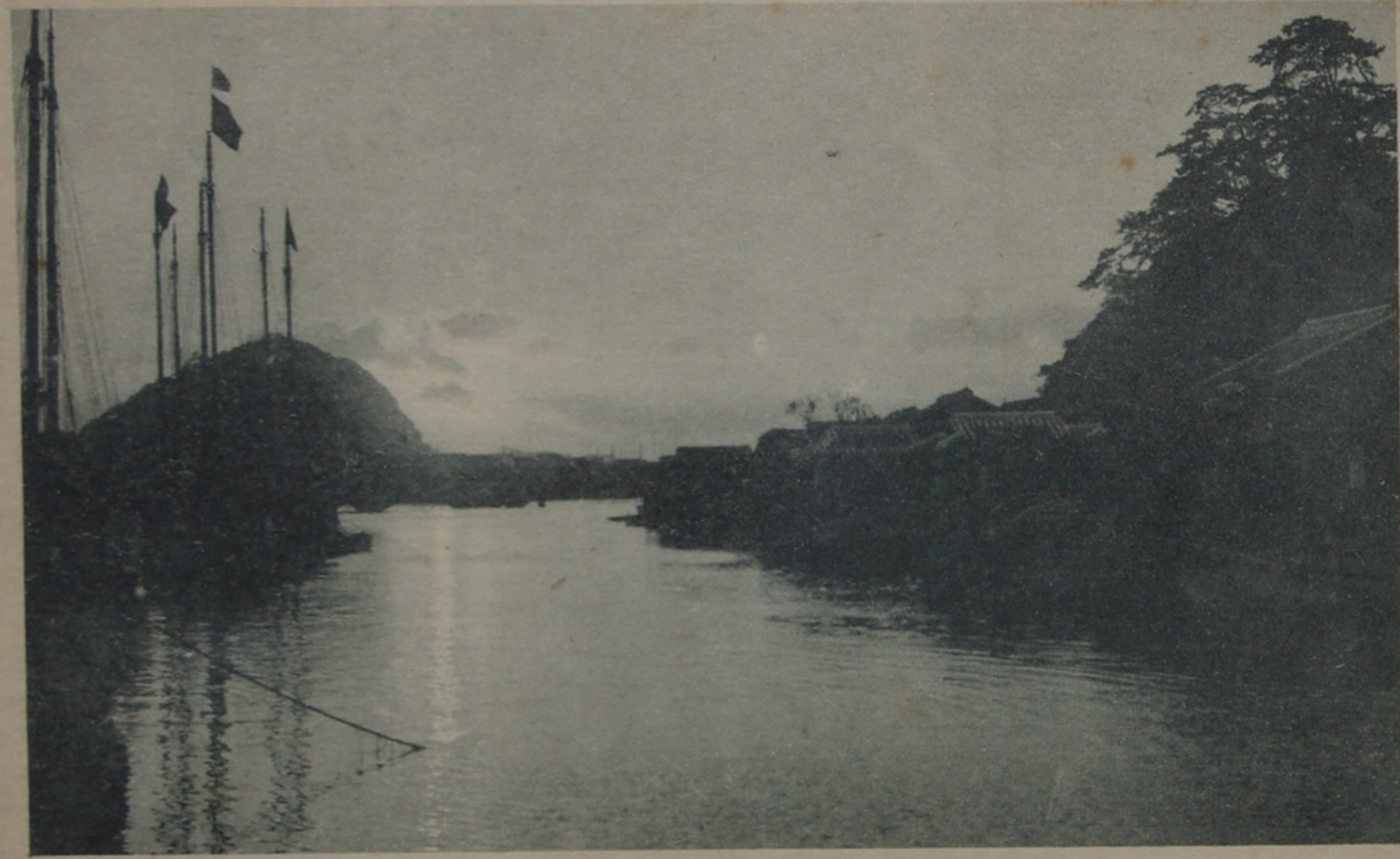
POST CARD

鶴江の夕照

◎鶴江の夕照

町の北方鶴江は夕景の赤雲海波に映じ一入の  
風光さながら畫中に髣髴たるを以て知らる名  
所圖繪に「入江霸城入勝の一にして出入の白  
帆は霞に見えかくれて波ともあざむき簞たく  
海士小舟の沖に連なりて夜短の明るをしらす  
網引する小舟は霧中行き歸りて朝より夕にい  
たる降りそく白雪は島山に雲のかゝるかど  
疑はれて實に四時の風光さながら畫中に髣髴  
たり」とあり其詩歌

斜陽宜曬網 一半鶴江紅  
島影委浪水 寒潮湧遠空 (原欽)  
鶴のゐる入江の村の松原に  
残る夕日のかげのさやけさ (春貞)



照夕の江鶴 (景八萩)

朝の日のやけのちやけ  
 朝のゆる入野の林の影に  
 (春良)

長峰委新水 寒野霞空  
 長峰宜野 一半鶴玉珠  
 (東流)

夕のよも其福輝

朝の日のやけのちやけの  
 朝のゆる入野の林の影に  
 夕のよも其福輝  
 朝の日のやけのちやけの  
 朝のゆる入野の林の影に  
 夕のよも其福輝  
 朝の日のやけのちやけの  
 朝のゆる入野の林の影に  
 夕のよも其福輝

◎ 鶴玉の夕照





きかは便郵

POST CARD

山口縣萩市

大正七年十月二十五日印刷  
全 年十一月一日發行

東京市京橋區疊町十一番地  
著作兼發行印刷者 中島石松

山口縣萩東田町

發賣元 白銀日新堂

振替大坂三七九三番  
電話八十四番

Y220  
E8

16枚  
9 x 16 cm

昭和十一年十一月一日發行  
東京市京橋區橋本十一番地

發賣元 白鷺日藤堂

山口 瀬野 東田 印

香川 縣 高松 市 中島 区 本町

全 一 冊 十一月一日發行

大正十年十月二十日印刷

TRC102095



萩市立図書館



111325239

20

8

